

# REI MEI

vol.42  
No.3

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより「黎明」

## Contents

特集  
企画展

風景へのまなざし 発見された鹿児島の名勝

研究ノート

農耕儀礼「モメモ」

夏の活動報告

Anniversary Year! 今年は〇〇周年!

伊作荘日置北郷の下地中分 700年

桜島の大正噴火 110年

学芸員EYES! 第11回

虎児渡河図罽

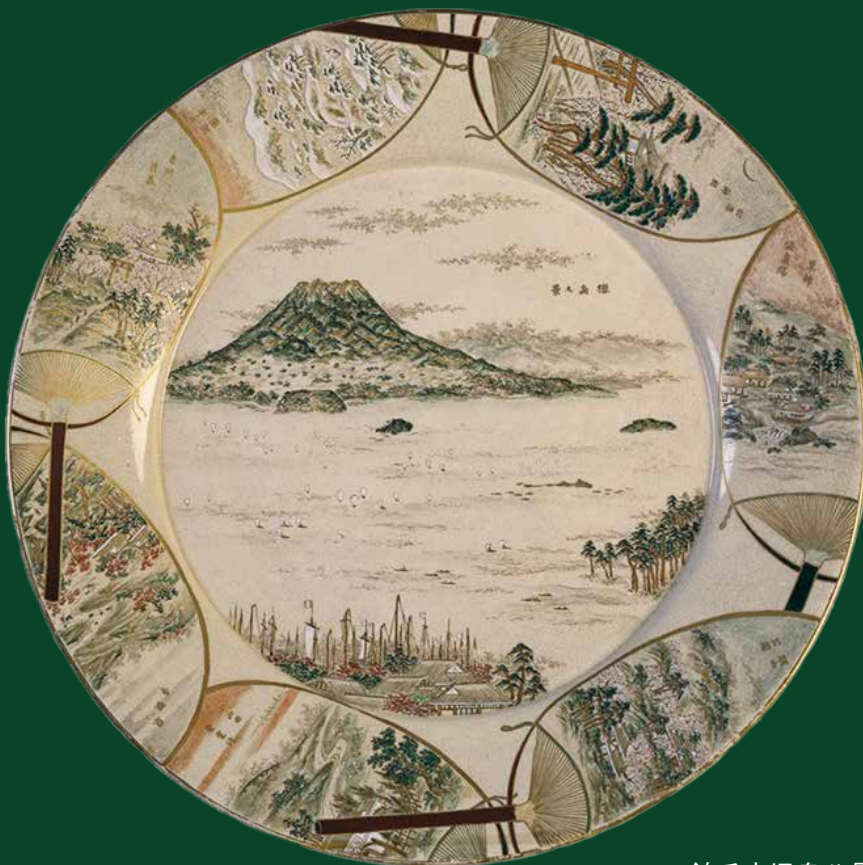
黎明館のフカボリ⑭

敷地散策のススメ 聚珍宝庫碑

特集 企画展

## 風景へのまなざし

発見された鹿児島の名勝



錦手鹿児島八景図大皿

『六十余州名所図会』(パネル)

左上：大隅 さくらしま／右下：薩摩 坊ノ浦 双剣石

歌川広重 嘉永6(1853)年～安政4(1857)年



錦手龍田川文瓶子 一对 19世紀 個人蔵

序章  
歌枕と名所

特集 | 企画展

# 風景へのまなざし 発見された鹿児島の名勝

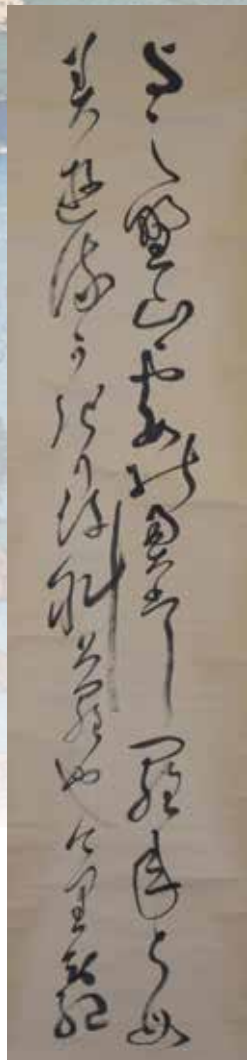
令和6年

令和7年

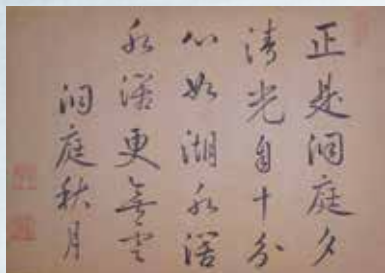
12.10<sup>㊤</sup> - 3.2<sup>㊤</sup> 黎明館3階 企画展示室

鹿児島島の風景はどのように見出されてきたのかを遡ると、和歌に辿り着きます。和歌に詠まれた景勝地が絵画として描かれ、くり返し詠み描かれることにより名勝として定着していきました。なかでも風景を定数化し評価する「八景」などに選定されることにより、多くの名勝が見出されました。その後、私撰、官撰の地誌が編纂され、そこに描かれた多くの挿絵が風景画の宝庫となる一方、よ

り实景に迫る表現も目指されました。明治時代に入ると、西洋絵画の写実的な風景画がもたらされ、広がりを見せます。また、近代化とともにそれまでにない価値基準で新たな名勝が発見されていきました。本展では、風景に向けられたまなざしと表現の移り変わり、その中で発見された鹿児島の名勝を、和歌や絵画、工芸品などを通して紹介します。



和歌「吉野山」  
八田知紀  
黎明館蔵



『栄翁公筆唐八景之図』洞庭秋月  
江戸時代後期 玉里島津家資料 黎明館蔵



『鹿児島八景図巻』桜島秋月(パネル)  
伝小方守房 江戸時代前期 尚古集成館蔵

## 第1章 「八景」の世界



喜鶴亭十六景図(仙巖園十六景図巻)[パネル]  
天明7(1787)年頃 尚古集成館蔵

／薩摩の八景、ご覧あれ！＼





寛藩名勝考  
白尾国柱編 寛政7(1795)年 黎明館蔵



『名山図譜』 左：御岳 在薩摩州桜島／右：霧島山 在日向那珂郡  
谷文晁 文化4(1807)年 玉里文庫 鹿児島大学附属図書館蔵

第3章 描かれた鹿児島風景



『紀行篇画帖』加治木竜門瀧之図  
高木善助 嘉永7(1854)年 鹿児島県立図書館蔵



桜島之図 島津斉彬 江戸時代後期  
玉里島津家資料 個人蔵・黎明館保管



霧島神宮図 平山東岳  
明治時代 黎明館蔵

風景に向けられたまなざしと表現の移り変わり——  
鹿児島風景はどのように描かれてきたのでしょうか？



『鹿児島県写真帖』鹿児島市全景(城山より見たる)  
三宅源之助 明治40(1907)年 玉里島津家資料 黎明館蔵

第4章 近代の名勝



鹿児島といったらやっぱり...

錦手鹿児島八景図大皿  
慶田焔 明治～大正時代 黎明館蔵

関連イベント

黎明館講演会ならびに学芸講座の申込詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。

黎明館講演会  
「近代日本のツーリズム ～鉄道と社寺参詣を中心に～」

日時：1月18日(土) 13:30～15:00

講師：神奈川大学国際日本学部准教授 平山 昇 氏

会場：黎明館2階 講堂

事前申込制(電子申請または往復ハガキ)

応募期間：11月14日(木)～12月30日(木)

講座後に展示解説を行います(要団体入館料)。

学芸講座(展示解説講座)

「風景へのまなざし 発見された鹿児島の名勝」

日時：1月11日(土) 13:30～15:00

講師：黎明館主任学芸専門員 深港 恭子

会場：黎明館3階 講座室

事前申込制(電子申請または往復ハガキ)

応募期間：12月12日(木)～12月26日(木)

講座後に展示解説を行います(要団体入館料)。

展示解説

日時：令和7年1月5日(日)

令和7年2月1日(土)

令和7年2月15日(土)

各日とも13:30～14:10

会場：黎明館3階 企画展示室

要入館料、事前申込不要

## 農耕儀礼「モメモ」

はじめに

資料調査編集員 田平 晶子

「モメモ」は鹿児島県南さつま市加世田内山田に残る行事で、地区や地域で行うものではなく、各農家が行っている農耕儀礼である。鹿児島県教育委員会がまとめた「鹿児島県の祭り・行事」に存続危機との記載があり、今後完全に消えてしまう可能性が高い。ここでは現在伝わっている範囲で書き記し、紹介したい。



農耕儀礼「モメモ」とは何か

旧暦10月の亥の日に、苗床田(稲の苗を育てる田んぼ)に藁包と竹で作ったものを立て、それを餅で飾り、歌を唱えながら藁包の周りを歩いて豊作を祈るものである。小野重朗氏の「民俗神の系譜」で紹介されている南さつま市武田・内布の「モモドン」と酷似していることから、「モメモ」も牛神信仰のひとつであり、「原始的な農耕神」と考えられる。

「モメモ」の内容

(ア) 新米の餅米で餅をつく。餅は掌より少し大きめの円形に成形する。

(イ) 苗床田に藁包をXの形にし、交差した部分の中央に竹をさしたものを作る。藁包をまとめる縄は藁を左撚りに編む。

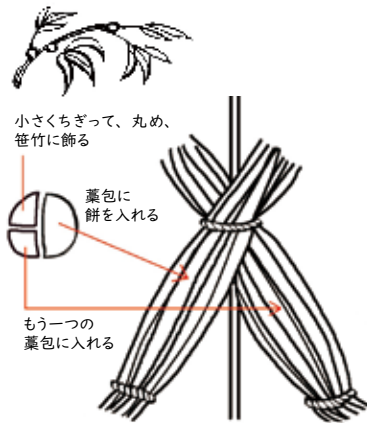
(ウ) 餅を半分にちぎり、藁包の中に餅を入れる。残りをさらに半分にし、ひとつは残りの藁包の中に、もうひとつは小さくちぎって竹に飾り付ける。

(エ) 歌を唱えながら、藁包の周りを左回りに歩く。(先述した小野氏の資料には右回りに歩く写真が掲載されているため、回る方向などに明確な決まりはないと思われる) 踏み出しの足、歩き方に決まりはないが、歌は2回以上唱える。

これは男児が行うものであったが、現在では年齢に関係なく、男性が行っているようである。女兒は参加できない。参加すると、女兒に「悪いこと」が起こるとされている。

(オ) 「モメモ」のあと、藁と竹はそのままにする。餅はカラスなどの鳥が食べてくれる。鳥が食べに来ないと「なぜ来ないのだろうか」と心配する。

鳥が食べる=神様が受け取るという考えである。



「モメモ」の歌

口頭伝承を採譜したものである。

♩ = 60

採譜者 田平 晶子

歌詞の意味

もーもーめも 一畝(いっせ)に 十三俵(とれますように) 来年から 雄牛が(収穫された米俵と)引き合い(引き比べ)をするくらい(豊作になりますように)

※ 「いっしゅ」は「一升」と思われるが、「一畝(いっせ)」とも歌われていることが分かった。「いっせ」が「いっしゅ」と転訛したものと考えられる。

※ 「ひっくらんぼ」の部分は「ひっきらんご」「かっきらんご」「かろいきらんご」とも歌われている。「ひっきらんご」は「引ききれないほど豊作になりますように」、「かっきらんご」は「刈りきれないほど豊作になりますように」、「かろいきらんご」は「背負いきれないほど豊作になりますように」という意味の歌詞である。

おわりに

北見俊夫氏の「南薩地方における農耕儀礼 一加世田市内山田の例一」には、亥の日の餅として、「モメモ」と一緒に行う行事として「オツギドン」(数名の男児が細長くした餅の端を啜って引き合う)が記載されていた。しかし、今回の調査では確認することができなかった。伝承が途絶えたのであろう、農家ごとの農耕儀礼が存続困難であったことは想像に難くない。今後、可能な範囲で伝承内容を記録し後世に伝えることが、ますます大切になってくるだろう。

<参考文献>

- 小野重朗「南九州の民俗神」1972 南日本出版文化協会刊
- 小野重朗「民俗神の系譜 一南九州を中心に」1981 財団法人法政大学出版局
- 小野重朗「南日本の民俗文化IX 増補 農耕儀礼の研究」1996 (株)第一書房
- 「鹿児島県の祭り・行事 かのしまの祭り・行事調査事業報告書」2018 鹿児島県教育委員会
- 北見俊夫「南薩地方における農耕儀礼 一加世田市内山田の例一」(鹿児島民俗 第五号)1955 鹿児島民俗学会





**オリエンテーション**  
鹿児島県史料について学びます

目録作成のため  
分量を測ります



**歴史**

**民俗**



写真撮影中

資料について調べてみよう!

## 博物館実習

黎明館では、毎年学芸員資格取得を目指す実習生の受け入れを行っています。今年度は、8月21日から28日までの実習に11名が参加しました。資料の扱いをはじめ、資料保存や展示環境について学んだほか、展示場での解説や受付業務も体験しました。



**美術工芸**

慎重に巻いていきます

展示場での解説



**考古**

資料の保存について学びます

キッズフェスタには実習生も参加します



展示場で照度を実測!

当日の流れを確認中

**キッズフェスタ準備**



西郷どんカルタ大会開幕!



スペシャル展示解説スタート!



展示解説に興味津々!



大人も子どもも白熱!?

## キッズフェスタ

8月25日に小学生を対象とした夏休みイベント「キッズフェスタ」を開催しました。今回のテーマは「かごしまの偉人とお金」。子ども向けのスペシャル展示解説や西郷どんカルタ大会を通して、鹿児島の歴史を楽しくわかりやすく学びました。



上手に札をとれるかな?



参加者全員でポーズ!



鹿児島の偉人とお金について  
くわしくなったかな?



各分野から、今年度周年を迎える出来事をピックアップし、関連する資料をご紹介します。

いざく 伊作荘・日置北郷で下地中分を行ってから(元亨4(1324)年)

700年

中学・高等学校の歴史の教科書にもでてくる「下地中分」。鎌倉時代になると、荘園には持ち主の領主と、幕府が任命した現地の土地を管理する地頭が置かれます。地頭の中には次第に領主の権限をうばうようになり、荘園をめぐる領主と地頭との間に紛争が絶えなくなります。そこで領主と地頭がそれぞれ支配する境界を、話し合いによって取り決める下地中分が行われました。島津荘薩摩方日置北郷(現・日置市日吉町吉利)は、近衛家を本家、南都一乗院を領家とする荘園です。弘安4(1281)年、島津3代久経二男・久長が伊作荘及び日置北郷の地頭に任ぜられてから、領家・地頭との間で荘園の権利をめぐる対立が激化しました。右の資料は、元亨4(1324)年8月に交わされた下地中分和与状に付いている絵図です。縦に赤い中分線が引かれ、左の「領家方」と右の「地頭方」に分けられていることが分かります。加えて、領家政所、地頭所、集落の位置、その他各名田、下司菌など荘園独特の田園の状態も分かります。



日置北郷下地中分絵図

原資料…(重要文化財)東京大学史料編纂所蔵

ここから伸びる線が中分線、矢印の左(北側)が領家方、右(南側)が地頭方と書かれています。

歴史

桜島の大正噴火(大正3(1914)年)から

110年

大正3(1914)年1月12日朝8時ごろ、桜島の御岳の山腹から多量の溶岩が噴出しました。噴煙の高さは約7000～8000mにも及んだとされています。黎明館常設展示1階で展示しているこの時の火山弾の大きさは、縦50cm・横72cm・高さ50cmにもなります。その後も溶岩の噴出は続き、1月30日には大隅半島とのあいだを埋め、陸続きになりました。同時に発生した火山性地震の余震もしばらく続き、当時の新聞には、鹿児島湾沿岸の人々が避難で混乱している様子が書かれています。この噴火は、島民の財産の多くを奪い、多くの人々が移住を余儀なくされました。

県は、大正5年から桜島噴火の被害の状況と対応などをまとめ、昭和2

(1927)年に『桜島大正噴火誌』として発行しています。大正噴火全般を記したいわば公

的な記録です。地図は、噴火による溶岩の流出を描いており、赤色で塗られた部分が大正3年の噴火によるものです。これらは自然災害の大きさを現在に伝える資料です。



桜島噴火(写真) 大正3年1月12日午前11時 玉里島津家資料



『桜島大正噴火誌』 昭和2年発行

歴史



## 鐺金工の匠の技



表



裏

裏面を拡大



学芸課長 切原勇人 (美術・工芸担当)

右は、刀の鐺を拡大したものです。鐺の実際の大きさは、直径約8cmです。

作者は、江戸時代、現在の鹿児島市谷山に住んでいた薩摩鐺の代表的金工師小田直教(おだなおのり)です。

初代は直香、二代直教、三代直升、四代直堅と続いた鐺金工の系統です。小田系が活躍した時代は、元文頃から文政・天保頃(1736～1830年頃)です。

点苔(てんたい)(中心の点を囲む細かい点が円形状に表されている表現)の技法を紹介したいと思い、拡大しました。点苔とは、もともと水墨画の技法で、画面に律動感を与えるために、画面全体の調子を整える重要な技法です。

それにしても、この小さい鐺にいくつの点苔が施されているのでしょうか。

この鐺の表に94個、裏に63個、合わせて157個。これは元の所有者が数えたメモです。点苔一つ当たりのサイズは、0.5～1.0mmほど。もはや拡大鏡を使わなければ、数えることはできません。この鐺の画題は「虎児渡河図(こじとかず)」という水墨画で描かれるテーマで、鐺という扱いにくく、円形という形の制限がある鐺に、まるで筆で描くように表現しているのは、自分の金工(鐺)師の腕前を誇示しているようにも見えます。職人氣質の気概や思いが詰まった鐺を見ると、先人は後世の人が真似できない仕事をしていると感服するしかありません。

## 黎明館のフカホリ 14

敷地散策のススメ

### 聚珍宝库碑 (しゅうちんぼうこひ)

当館の正面玄関北側に「聚珍宝库碑」の石碑と案内板があります。聚珍宝库とは、文政10(1827)年に、8代藩主島津重豪が江戸の高輪藩邸に建てた蔵の名前です。聚珍宝库については、重豪の事績を記録した「仰望節録」に、重豪が集めた数千種類の珍しい品を収蔵するために建て、石碑も作ったとの記述があります。

重豪の収集品については、文化12(1815)年に左大臣近衛基前らが高輪藩邸を訪ねた時の接待記録に、「紅毛硝子器」「丸ゴル楽器」などの海外からの品々を飾ったとあります。なお、重豪は博物学にも強い興味を持ち、オランウータンの剥製なども持っていました。このようなものが聚珍宝库に納められていたと考えられます。

重豪は晩年、コレクションを子ども達に譲ったとされ、現在は収蔵品の行方はわかりません。しかし、この石碑だけは平成の世になるまで東京にあり、平成11(1999)年に当時の所有者から県へ寄贈の申し出があり、その後「現代の聚珍宝库」とも言える、鹿児島の貴重な文化財を収蔵する黎明館に移設されました。



(参考)

『鹿児島県史料 旧記雑録追録七』鹿児島県維新史料編さん所編、鹿児島県、1977年  
芳即正『島津重豪』吉川弘文館、1989年

『島津重豪—薩摩を変えた博物大名—』黎明館企画特別展展示図録、2013年  
吉満庄司「資料紹介『聚珍宝库碑』について」黎明館調査研究報告第13集、2000年

会期：令和7年3月11日(火)～令和7年6月1日(日)

会場：黎明館3階 企画展示室

黎明館は、鹿児島県の歴史・文化に関わる資料を寄贈・寄託や購入によって収集・収蔵し、現在、その数は約18万点にも及びます。本企画展では、近年収蔵した資料のなかから未展示のものを中心に、歴史、民俗、美術・工芸の分野ごとに展示し、関連資料も交えて資料収集の成果について紹介します。



新納忠之介作 木造観世音菩薩立像



薩摩国地理志



明治二十一年七月 「歐米巡廻日記」

黎明館 NEWS

令和5年度企画展図録、好評発売中！

令和5年度に行った企画展「幕末・明治 初公開資料展」「中世前期の領主居館」「孤高の画家 有馬さとえ展」「伝統と革新の融合 鹿児島城」を1冊の図録にまとめました。

- 1冊550円(税込)
- 販売時間は9:00～17:30(休館日を除く)です。
- 販売は令和7年3月30日までです。
- 数に限りがあります。在庫がなくなり次第、販売を終了します。
- 通信販売はありません。常設展示入口のみの販売です。



展示室貸会場イベントスケジュール(11月～1月)

黎明館開館時間(9:00～18:00)

期間	時間	イベント	会場	観覧料	主催者お問い合わせ先(敬称略)	備考
10/29(火)～11/4(月)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第48回 鹿児島合同写真展	第1	無料	鹿児島県写真協会 村上光明	099(203)0099 初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/29(火)～11/4(月)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	鹿児島フォトサロン写真展	第3	無料	鹿児島フォトサロン	0996(25)0018 初日9:00開場 最終日16:00閉場
11/23(土)～12/1(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	第79回 南日本美術展	第1 第2	有料	南日本新聞社事業部	099(813)5053 初日9:00開場 最終日17:00閉場
11/29(金)～11/30(土)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第72回 鹿児島県発明くふう展	第3	無料	一般社団法人 鹿児島県発明協会	099(295)0171 初日13:00開場 最終日16:00閉場
12/7(土)～12/15(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	「かごしまの工芸百人展」 —響きあうかたち 2024—	第2	無料	鹿児島陶芸家協会	099(274)2358 初日10:00開場 最終日16:00閉場
12/21(土)～12/22(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第43回 唐湊幼稚園美術展	第2	無料	唐湊幼稚園	099(252)8244 初日9:00開場 最終日16:00閉場
12/26(木)～1/5(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	JA共済小・中学生書道・交通安全 ポスター作品コンクール展示会	第2	無料	JA共済連鹿児島	099(258)5565 初日9:00開場 最終日17:30閉場
1/21(火)～1/26(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第28回 松陽芸術祭	第2 第3	無料	松陽高等学校	099(278)3986 初日9:00開場 最終日15:00閉場

編集  
後記

鹿児島の名勝の代表と言えば、活火山の桜島。黎明館の正面入口は、御楼門と桜島を一緒に撮影できるフオスポットです。来館の際は、是非写真を撮ってみてください。(田平)

編集・デザイン 田平晶子 中村友美

Information

※ 展示や催し物等の予定は変更になる場合がありますので、ホームページまたはSNS(Facebook・X・Instagram)にてご確認ください。



開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、毎月25日(土・日・祝日の場合は開館)、12月31日～1月2日、そのほか館が定める日

観覧料 一般420円 高・大学生260円 小・中学生160円

〈年間パスポート〉  
一般840円 高・大学生520円 小・中学生320円

※障害者手帳の提示で無料 ※団体(20名以上)割引あり。 ※鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和6年度まで) ※鹿児島県内に居住する18歳以下は、土日祝日は無料(令和6年度まで)

アクセス 鹿児島空港から鹿児島市内行きバス「市役所前」下車、徒歩7分  
JR「鹿児島駅」から徒歩15分  
JR「鹿児島中央駅」から市電・バス利用  
市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分  
鹿児島市内巡回観光バス「薩摩義士碑前」下車すぐ  
無料駐車場あり(普通車125台 バス20台)

自転車・バイク・自転車をお越しの方は、②西門をご利用ください。  
③御楼門および④北門は、歩行者のみ通行可能です。(車椅子での通行はできません)  
車椅子で来館される方は、駐車場まで来てお越しいただくことをお勧めしております。  
御楼門西門ご利用時 黎明館開館日の7:00～18:30(休館日は通り抜けできません)

鹿児島県歴史・美術センター 黎明館

〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号  
☎099-222-5100 FAX.099-222-5143

Follow us!

ホームページ、SNSで黎明館情報を発信しています。フォローして、ぜひチェックしてみてください。

QRコード: Homepage

Facebook: @reimeikan

X: @official\_reimei

Instagram: @official\_reimei